

年 組 名前

2020年7月2日付尾張版他

ピンクバッタ見つけた

一宮市の大和西小3年の森部志太君(8)が、ピンクのバッタを同市大和町苅安賀の道路で見つけた。岐阜市の名和昆虫博物館の名和哲夫館長(65)によると、写真や「体長5センチほどで飛ばなかった」という情報から、ショウリヨウバッタの幼虫とみられる。(下條大樹)

志太君は先月二十日夕、父慎司さん(四)と妹の心結ちゃん(六)と歩いて帰宅途中、道路の縁石の上にいるバッタを見つけ、「ピンクのバッタがいる」と叫んだ。慎司さんが駆けつけ、スマートフォンで撮影。志太君は「かわいいと思った」と振り返る。名和館長によると、ショウリヨウバッタは五〜六月にふ化し、脱皮を繰り返して夏に成虫になる。成虫の体長は雄が四〜五センチ、雌は七〜五〜八センチで、多くは緑色か褐色になる。一方でまれにピンク色の個体もある。成虫で羽までピンク色



森部志太君が見つけたピンクのバッタ
一宮市大和町苅安賀で(慎司さん提供)

一宮の小3森部君道路で

の個体は珍しいが、幼虫では時々見られるという。森部さん家族は、バッタの命を思っ捕まえないことが、名和館長は「見つけている。たらせひ、飼育してほしい。子どもの知的好奇心を育て、将来の科学者を育てることにつながる」と語っている。

※大人の人に記事を読んでもらって考えましょう。

問1: ショウリヨウバッタは、どのようなじゅんに育ちますか。言葉を書き入れましょう。

たまご → () → 成虫

問2: バッタやトンボの育ち方は、チョウやカブトムシの育ち方とくらべて、どのようなところがちがうでしょうか。

Answer box for question 2.